

# 私にとって 「岡崎の教育」とは



愛知県立岡崎高等学校

校長 柴田 悦己 氏

## 教育随想



令和3年7月1日

# 7月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
愛知県立岡崎高等学校 校長 柴田 悦己 氏	
この人に聞く……………	2
写真家 志賀理江子 氏	
羅針盤……………	2
保健体育科指導員 波江野寛之	
ふれあい……………	3
城北中学校 教諭 太田 志穂	
特集……………	4
新任としての一年を振り返って	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
健康フェア(平成8年)	
この本を……………	8

岡崎市内の高校に初めて勤務する御縁を得たのは平成二十四(二〇一二年)年。途中三年間学校を離れましたが、令和元年度に再び岡崎の地に着任し、本年度を迎えています。

少し前のこととなりますが、コロナ禍が起こる直前の令和元年十二月に岡崎市のある店で、前任校で接点のあった市内出身の卒業生に偶然会う機会に恵まれました。大学卒業後、その店で働くこととなった経緯を話してくれた後に続いたのは、「おかげさまで、自分の足で歩きだすことができました。本当にお世話になりました」。この一言に、見違えるほどの人間的な成長を感じ、心が熱くなりました。

この偶然的の再会をきっかけにふと頭に浮かんだのは、市立大樹寺小学校での思い出です。昭和四十五(一九七〇)年四月に入学したものの、家庭の事情によりたった半年で市外に転居することとなり、しかも

五十年以上前のことなので記憶はほぼ全て忘却の彼方ですが、唯一、かすかよみがえってくるのがございます。それは、「ありがとう」「おかげさま」の大切さを説いた、全校生徒に対する校長先生の講話です。多分、この講話が私にとって「おかげさま」ということを初めて知ったときであったと思います。しかもこの時私は、なぜか「おかげさま」を偉い神様の名前だと思ってしまうのです。後にそれが自分の思い込みであったと知り、顔が熱くなったことを覚えています。(なお、在籍は半年でしたが、校歌は今でもそらで歌えます。)

しかし、考えてみると、「おかげさま」とは、今の自分が、身の回りにいる人々だけでなく、自身が知らない数多くの人々や人知を超えた神仏のような存在によって、知らず知らずのうちに支えられていることへの感謝の心を、謙虚さや敬虔さとともに伝えることばです。偉い神様の



名前と想ったこともあながち間違いないと言えないのかもしれませんが。

今回、月報「岡崎の教育」巻頭言の執筆依頼を受け、この教育随想を書いておりましたが、私にとって「岡崎の教育」とは、「おかげさまの教育」に他なりません。重厚な歴史を湛え、風格、落ち着きを感じさせる土地柄。そうした中で、私にとって次代を担う若者に伝えていきたい大切なことばの一つが「おかげさま」なのです。(しばた えつみ)



写真から見える「奇跡」

写真家 志賀 理江子氏

南中学校、岡崎東高校を卒業後、東京工芸大学写真学科に入学し、ロンドン芸術大学チェルシーカレッジオブアートアンドデザインを卒業。

二〇〇七年度文化庁在外派遣研修生としてロンドンに一年間滞在。ロンドンの公営団地の住民たちを撮影した写真集「Lily」や「CANARY」で、第三十三回木村伊兵衛写真賞受賞。帰国後は、宮城県に居を構え、住民の日常生活を撮影する地域カメラマンとして、活動を広げている。

—どのようにして写真にのめり込んでいったのですか—

高校の体育祭がきっかけでした。自分の肉眼では見えない世界がカメラでは見えたような気がして、そこから四六時中、写真のことばかりを考える日々が始まりました。高校の勉強はあまりしなかったのですが、写真にまつ

わることは夢中で勉強しました。その頃は、あまり将来のことについては、考えていませんでした。

しかし、研修先のロンドンで出会った米田知子さんから、多大な影響を受けました。米田さんは、戦争や震災後の跡地を訪れては写真に収め、その土地に宿る歴史的事実に迫る写真家でした。この出会いによって、「写真がもつ力」「写真というメディアとは何か」について深く考えさせられ、写真家になろうという思いを強く抱くようになりました。

—岡崎を離れた理由は何ですか—

岡崎では住宅地に住んでいましたが、夜も明かりがついていたり、道路も舗装されていたりと安全で便利な生活でした。そのような生活が、いつしか「作られた美しさ」のように思い、違和感になっていきました。この生活を変えるにはどうしたらよいのか、自分なりに考えた結果が移住でした。移住先の宮城県「北釜」は、偶然訪れた場所でしたが、海岸沿いの松林と海に囲まれた集落で「ありのままの美しさ」がありました。これほど写真に撮りたいと心惹かれた光景は、「北釜」が初めてでした。私の中の違和感もいつしか消え、「北釜」の住民の一人として、素朴な日常生活を撮影していました。

—写真を通して伝えたいことは何ですか—

十年前に震災が起り、北釜集落では五十四人の方が亡くなりました。人だけでなく、全てのものが真っ黒の水に沈み、見渡す限り水面だけという世界が目の前に現れました。

津波で流された家からは家族や風景の写真が大量に流出しました。その数、約三万枚。その中の一枚を見ると、家族の震災前の「日常」が写っていました。その瞬間、その「日常」がどれほどの「奇跡」の上に成り立っているのかを訴えているものが、写真だと思いました。「日常」と思う全てのことに歴史があります。その一瞬が少しでも違えば、同じ写真は二度と撮影できません。だからこそ、全ての写真が「奇跡」であり、その一枚は何かを訴えているのです。

写真には力があります。だからこそ、写真で何かを伝えたいというよりは、写ったものが何を意味するのかを、見てください。自分自身が感じ取ってほしいと思います。「写真というメディアとは何か」。その答えを追究するために、今もお、私は制作活動を続けています。

—最後に将来を担う子供たちに一言お願いします—

私にも六歳になる子供がいますが、自分が得意なことや好きなことを見つけて、夢中になってほしいと思っています。その道が本当に好きな内容であるならば、寄り道をしながらでも追究していけるはずですよ。また、どんな道でも大きな問題にぶつかるときがあります。そのときは、試行錯誤しながらも本気で乗り越えてほしいです。



氏名 しが りえこ  
生年月日 一九八〇年生  
住所 宮城県遠田郡美里町



運動量確保を目指した体育科の授業

保健体育科指導員 波江野 寛之

今、運動する子供と運動しない子供の二極化や、子供の体力低下の傾向が深刻な問題となっている。それゆえに体育科の授業では、十分な運動量の確保が必要となる。

A小学校の二年生で、軽快なリズム音楽に合わせ、各班が、遊園地の乗り物になり切って踊る「表現遊びとリズム遊び」を参観した。この授業でB教諭は、子供の学びを支援するファシリテーターに徹し、運動量を確保することに努めた。

まず、導入で、子供たちは、動きを表現するかについて話し合った。「ジェットコースターは手を肩に乗せて傾きを表そう」「バイキングは前後に動くようにしよう」と、乗り物の特徴的な動きについて意見を出し合った。話し合いが終わると、早く動き出した子供たちは、音楽が流れるのが待ち切れない様子であった。子供たちの意欲の高まりは、準備運動段階からリズム運動を





## Aさんを支えたもの

城北中学校

教諭 太田 志穂

昨年、私は、小学校三年生を担任した。学級では、最後まで諦めないこと、笑顔を大切に全員でやり切ることを目標に掲げ、生活してきた。

Aさんは、毎朝、気持ちのよい挨拶ができる。そして笑顔の似合う明るい子だ。しかし、苦手なことやできないことがあると、すぐに諦めてしまうところがあった。何事にも最後まで取り組めるようになってほしいと、私は願っていた。

二学期に入り、運動会の練習が始まった。Aさんは、一・二年生の頃、ダンスの練習に思うように取り組めなかつたと聞いていた。そんな私の心配をよそに、最初の学年ダンスの練習は張り切っていた。しかし、安堵も束の間、すぐに浮かない表情になつた。そこで、その原因を尋ねてみた。しかし、反応はなく、机に顔を伏せ、泣き出してしまった。みんなと一緒にやるように誘っても、「嫌

だ。やらない」の一点張り。どうして嫌なのかと問いかけると、「みんなと同じようにできないから。」

と返ってきた。この言葉を聞き、本当はみんなと一緒に踊りたい、けれども思うようにできずに苦しんでいるということに気付いた。そこで、仲間が練習する様子を見学することを提案した。見学を始めたAさんは、しばらくすると、座って腕を動かし始めた。この様子を見て、学級のみんなと一緒に踊りたいと、Aさんは思っていると確信した。

次の日から私は、振り付けを覚えられように、Aさんの前で鏡になるように踊った。何日も、Aさんの練習に付き合つた。Aさんなら、やればできると信じていたし、最後までやり切らせたいからである。そんな様子を見て、仲間が

「Aさん、一緒に練習しよう。」と誘ってくれた。そこで私は、ゆつくりカウントを取りながら、できるまで一つずつ動きを確認した。

「Aさん、上手に踊れているね。」という仲間の声掛けに、照れた様子でにこっとするAさん。仲間と踊れたことで、少しではあるが自信が生まれた。気持ちに乗らず、踊りに参加できない日もあったが、その度に仲間が言葉を掛け、誘ってくれた。体育館練習では、学級の列に入れず、後ろで、一人で踊っているAさ

んの様子を見たペアの子が、「隣で踊ってもいいですか。」と声を掛けてきた。練習後半では、「Aさん、こっちで踊ろう。」

とペアの子が誘い、気付けば、学級の輪に入り、楽しそうに踊っていた。全員でやりきることを子供たちなりに考え、Aさんを上手に仲間に入れたことで、Aさんは同じように踊れるようになった。練習後、「上手に踊れるようになったね」と声を掛けると、うれしそうな顔で、

「家でもたくさん練習して覚えてきたんだよ。」

と得意気に教えてくれた。最後まで諦めずに取り組んだAさんの表情は、自信に満ち溢れていた。

運動会当日、Aさんはいきいきとした表情で踊ることができた。演技を終えたAさんは、

「先生、上手にできました。」と、にこっと笑つた。

やっぱりAさんには笑顔が似合う。この笑顔と仲間の温かい言葉は、私にとつて忘れ

ることができない宝物である。



行い、心身をほぐしたことによる。B教諭は、子供の実態を的確に捉え、ほんの数分でやる気にさせたのである。

その後、B教諭は「高い動きや低い動きがあつていいね」「観覧車になり切っているね」などの助言をし、全身で踊る姿や動きの工夫を価値付けた。子供たちは、その助言を基に、試行錯誤しながら表現方法を考え、動き続けた。子供たちから自然と発せられる「できた」「かっこいい」などの言葉に、運動する楽しさ味わう子供たちの思いが伝わってくる。

このように運動量を確保することができたのは、B教諭がフアシリテーターとして、子供の意欲を瞬時に高めたこと、子供に任せる部分を多くし、陰で子供を支えたこと、活動の時間を十分に保障したことなどが効果的であつたからである。

授業の終末には、「疲れたけど楽しかった」「違う乗り物もやりたい」と子供たちは笑顔で語つた。運動量を確保して、このような感想が自然と湧き出る授業が、これからの保健体育科で目指すべきものである。

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、授業改善は必要である。ただし、体育科の本質である運動量の確保をおろそかにしてはいけな

# 新任としての一年を振り返って

新しい生活様式の中で、子供とともに



昨年度、岡崎市に赴任して二年目となる先生方に、教員としての一年間を振り返り、感じたことや考えたことを大いに語ってもらった。  
新型コロナウイルスの感染拡大で、例年とは違った形での教員生活のスタートとなった。その中で、学校に新しい風を吹き込み、日々奮闘する姿や、先輩教師たちの支えの様子をうかがうことができた。

**Q** 昨年度を振り返ってみて、どうですか。

**A** 昨年度は、始まってすぐに学校休業になってしまいました。全員そろってスタートできず、制約の多い中で、どのように子供たち同士をつながりをつくるのかを考えました。

**E** 休業明けは子供たちの口数が少なかったため、休み時間は子供たちと遊ぶことを心掛けました。

**C** 休業期間中は、拠点校指導教員の先生に授業について教えていただきました。それでも実際に行ってみると分らないので、不安でいっぱいでした。



**Q** 昨年度の中で、うれしかったエピソードを聞かせてください。

**E** 休み時間の遊びの中から、友達同士が仲良くなり、役割分担もできました。それぞれの子の得意分野が分かり、一人一人が活躍できる学級になったと思います。

**C** 活躍しているところや頑張っている過程を褒めると、もっと頑張ろうという気持ちになってくれました。最後は友達同士で「頑張ったね」と声を掛け合うことができました。

るようになってきました。

**B** 中学校の副担任だったので、一年間を通していろいろな先生から吸収しようと必死でした。生徒に寄り添える教師になりたいと思い、一学期の後半からは同じ学級に朝から夕方まで入りました。すると、副担任の私を、クラスの生徒が、担任同様、一人の教師として認めてくれてとてもうれしかったです。

**D** 副担任として、担任の先生方の様子を見ることは大切だと思います。担任として子供の前に立つとき、あの先生はこういうことを言っていた、ということが頭に浮かび、今生徒指導に生かすこともできています。部活動では、声の掛け方次第で子供たちはやる気になることが分かります。



▲道徳の授業で学級づくり

**Q** 周りの先生に支えられたと思う出来事がありましたか。

**F** 同じ学年の先生方が「授業を観に来ていいよ」とおっしゃってくれたので何度も観に行きました。授業後に、「どうしてこういう発問をしたのですか」と私の素朴な疑問に対しても、快く答えてくださいました。このような環境があったことに大きな喜びを感じました。



**C** 学年主任の先生や年齢の近い先生が「一緒にやろうよ」と声を掛けてくださったり、拠点校指導教員の先生が実際に授業を参観させてくださったりして、勉強する機会を多く与えていただきました。

**E** 指導員訪問の機会に授業を参観させていただくことで、教科ごとの指導方法の理想が見えてきました。それをモチベーションとしています。

**Q** 行事もやり方を変えるなど大変だったと思いますが、行事を通してうれしかったことや子供の変容・成長を感じたことはありますか。

**F** 三・四年生が合同で行った体育学習発表会の練習では、四年生に





対し三年生の手本となる行動をできるように指導しました。回を重ねるごとに「自分たちでしっかりとやらない」という姿が見られるようになり、その成長ぶりに、今振り返っても涙が出そうになります。

**C** 学級対抗リレーの練習のとき、自分たちで考えた練習内容を、紙に書いて教室に掲示しました。本番では転んでしまったのですが、誰かを責めることもなく、「頑張ったね」と言つて、終わることができたのが、すごくよかったです。

**Q** 今年の抱負を聞かせてください。

**A** 今年は五年生の担任です。来年大きな花を咲かせられるように種をまき、芽が出るまで子供たちを信じて待ちたいです。

**C** これだけはしっかりと教えられたいと自信をもてる教科を、一年に一つずつつくっていきたいです。今年は音楽です。

**E** 間違ってもいいから自分の意見を言つて、子供たち同士の話し合いの中で答えにたどり着くという授業をしたいです。そのために、



互いを認め合える学級づくりを目標にしています。

**F** 昨年は二か月の休みの後、学校がスタートしました。そのため、学級のルー



▲授業研究を通しての学び

ルづくりにとっても時間がかかりました。今年は、休み時間と授業の切り替えをしつかりとできるようにしたいです。また授業では自分が話しすぎず、子供たちの意見がたくさん出る授業にしたいと思っています。

**B** 今年は担任一年目なので、教師一年目のつもりでやっています。担任として、昨年に続き学びの一年にしたいです。温かくて認め合えるという、理想の学級をつくりたいと思います。

**D** 子供たちの誕生日を大切にしたいです。それは、一人一人が大切にされる学級にしたいという思いからです。授業では、楽しい授業から、今年は深みのある授業をしたいです。

**Q** 新任の先生たちへのアドバイスをお願いします。

**C** 言われたことはまずやってみること。その中で自分に合ったスタイルを見つけたいと思います。

**F** 分からなかったらすぐに聞くためこまめに周りの先生に聞いてほしいです。それから、子供たちをたくさん褒めるようにすると、違った一面が見えてくると思います。

**D** 教師自身が学級経営を楽しみ、自分らしさを出すことが大事だと思います。それを子供たちは期待しています。それから、あの先生についていこうという、目標の先生を見つけれれると心強いと思います。

**B** 周りの先生と雑談で構わないので、いろいろな話をするとよいと思います。一年目だからこそ素直に聞けることがあります。

**E** 昨年は時間が経過するにつれ、子供たちといふことが楽しくなりました。だから、今は大変でも、これからだんだん楽しくなります、と伝えたいです。



**A** 教室にいる

ときは、明るく笑顔でいることが大事だと思います。



先生が笑っていると子供も楽しくなります。そして、子供に任せるところは任せる、そうすることで子供は、自分たちで学級をつくっていくようになります。

**丹羽** この職業で一番うれいのは

子供たちの変容や成長が間近で見られるということです。それを支援したり、背中を押したりすることができなのが教師という仕事です。先生方が強い志をもってやってみえるのを知り、私自身も志を忘れてはいけなと思います。

- 期日 令和三年五月七日(金)
- 会場 総合学習センター
- 司会 丹羽 郁人(北野小学校長)
- 出席 今泉 雄大(根石小学校)
- 石田みのり(六名小学校)
- 太田 奈穂(福岡小学校)
- 近藤 智也(六ツ南部小学校)
- 加藤光一郎(城北中学校)
- 伊奈由紀乃(六ツ美中学校)



●教育図書室の活用

教育研究所内にある教育図書室では、毎年新刊の教育図書を購入している。蔵書数は、現在約七四〇〇冊となる。また教育図書の他に、学習指導案、学会脚本、学芸会DVD、運動会DVDなどが収蔵されている。ぜひ積極的に活用し、日々の教育活動に生かしていきたい。

○所在地

総合学習センター（三階）

○開館日 火曜日～土曜日

○休館日 日曜日、月曜日、祝日

※月曜日が休日の場合は、火曜日も休館日となる。

○開館時間

午前九時～午後七時まで

※土曜日は午後五時まで

◆図書の出貸方法

①初回のみ受付にて個人登録

②一度に借りられるのは五冊まで

③二週間以内に返却

◆学習指導案・学芸会脚本蔵書の検索方法

【個人のパソコンから】

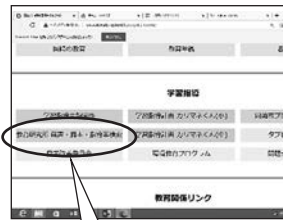
[Microsoft Edge]

「教職員ポータルサイト」



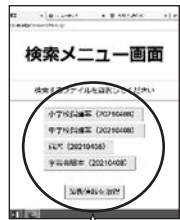
下へスクロール

「教育研究所 蔵書・脚本指導案検索」



ここをクリック

「検索メニュー画面」



探したい情報を選択

※希望する学習指導案等が教育図書室に収蔵されているか分かる。

【教育図書室で検索・印刷】

①教育研究所に直接来所し、教育図書室のパソコンで検索、閲覧する。

②希望する資料の「分類番号」を受付に伝え、印刷してもらう。

※紙文書で収蔵されている学習指導案は複写可能

●少年自然の家だより

行事で育つ

所長 川口 厚

「行事が人を育てる」といいますが、この少年自然の家で実施される山の学習でも、その一端が担えることを嬉しく思います。先生方は事前の準備が大変だと思いますが、当日は、肩ひじを張らずに、「子供と一緒に楽しもう」という気持ちでいる方が子供たちも自主的に動けるのではないのでしょうか。山は不便な体験をしに来るところですから、失敗も貴重な経験の一つです。子供たちは、準備や協力する活動の中で学んでいきます。たった一日、二日です。大きく変わるはずがありませんが、学校生活以外の場だからこそ得られる発見や学びは必ずあります。

また、昨年度に続いて今年度もコロナウィルスにより、多くの学校で、山の学習は一学期から二学期へと延期されました。当たり前だった二泊の実習は、一泊や日帰りになりました。同様に、運動会や学習発表会が中止になった学校もたくさんあると聞きました。

学校における行事を来年度「元に戻す」だけではなく、もう一度見直しする時が来ているのかもしれない。ただ削るだけでなく子供たちが達成感や満

足感を感じられるものを目指したいものです。

例えば山の学習は、実施の時期を変えるだけでも景色や活動内容が変わります。

三月の末、少年自然の家の運動場南側の山の斜面には「やまざくら」が満開に咲き誇ります。五月の新緑は自然の力を感じます。十一月の中旬には、溪流と紅葉の美しさに目を奪われます。これらの時期は、ほとんどの学校が行事と重なり、利用がありません。少年自然の家での体験活動をするのも楽しいのですが、自然のよさや美しさを感じることもできるのもこの時期です。

「山の学習」は、難しく考えずに、自然を楽しみながら、集団活動をすればいいのです。

「少年よ 自然に還れ」  
「大人も 自然に還れ」



▲親子火おこし体験



▲ピザづくり

●授業力・教師力アップセミナー

今年度も、夏季休業中に授業力・教師力アップセミナーを開催する。

「基礎編」では、七月二十八日(水)に七ページの表のように十九の講座を設けている。

「応用編」は、「岡崎市免許状更新講習」の選択講習を兼ねた内容で行う。七月三十日(金)八月三日(火)四日(水)の三日間にわたり、二十七の講座を設定している。

この授業力・教師力アップセミナーを通して、新たな知識や技能を身に付け、教師としての専門性をさらに高めてほしい。



◆令和3年度授業力・教師力アップセミナー【応用編】

【7月30日(金)】 ※会場は変更の場合あり

講習名	会場	講師
小学校国語科教育	総合学習センター 多目的ホール1・2	鈴木紀子子
中学校社会科教育	総合学習センター 研修室1	竹平 真仁
小学校算数科教育	総合学習センター 多目的ホール3	平 任代
中学校理科教育	竜南中学校	清水 孝治
小学校音楽科教育	美川中学校	寺島 真澄
小学校図画工作科教育	竜海中学校	高橋 誠
小学校体育科教育	小豆坂小学校	板倉 真介
中学校技術科教育	甲山中学校	浅野 博志
中学校英語科教育	総合学習センター 研修室2	石川 敏幸
健康教育	総合学習センター 小ホール	柴田 和美

【8月3日(火)】

講習名	会場	講師
中学校国語科教育	総合学習センター ICT室	山本 伸
小学校社会科教育	総合学習センター 多目的ホール1	尾崎 智佳
中学校数学科教育	総合学習センター 多目的ホール2	鈴木 勝久
小学校理科教育	総合学習センター 研修室1	犬塚 健一
中学校音楽科教育	六ツ美中学校	細井 鶴貴
中学校美術科教育	北中学校	長谷川勝一
中学校保健体育科教育	葵中学校	今枝 武司
小・中学校家庭科教育	緑丘小学校	小田喜代美
小学校外国語(外国語活動)	総合学習センター 多目的ホール3	都筑 香理
命の教育	総合学習センター 研修室2	榑原万由美
幼児教育	総合学習センター 小ホール	伊豫田千重子

【8月4日(水)】

講習名	会場	講師
特別の教科 道徳	総合学習センター 多目的ホール3	坂元 干城
特別活動・学級経営	総合学習センター 研修室1	神谷 明良
生活科・総合的な学習の時間	総合学習センター 研修室2	倉地 耕治
情報教育	羽根小学校	川本 祐二
発達障がい児の理解と支援	総合学習センター 多目的ホール1・2	河合由起子
生徒指導	総合学習センター 小ホール	山内 貴弘

◆令和3年度授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

月日	教科・領域	講師	開講式 閉講式
7/28	国語・書写	愛知学泉大学 家政学部家政学科 子どもの生活専攻 教授 山田 禮子 愛知県総合教育センター 研修部企画研修室 非常勤講師 高橋由美子	9:00 12:10
7/28	社会	岡崎市教育委員会 社会教育課 学芸員 山口 遥介 岡崎市役所 都市施設課 係長 中川 健太 翔南中学校 社会科指導員 森田 淳一 矢作北小学校 社会科指導員 安井 文一	9:00 12:15
7/28	算数・数学	東京学芸大学附属竹早中学校 教諭 小岩 大	9:15 11:50
7/28	理科	自然科学研究機構 分子科学研究所 教授 平本 昌宏	9:00 12:00
7/28	生活	愛知教育大学 教授 加納 誠司	13:30 15:50
7/28	総合的な学習の時間	中京大学 教授 久野 弘幸	9:10 12:00
7/28	音楽	音楽教育推進協議会 理事 加藤 幸平	13:15 15:50
7/28	図工・美術	竜海中学校 図工・美術科指導員 鳥居 光世 北中学校 図工・美術科指導員 堀口 宏章	9:10 11:50
7/28	体育・保健体育	小豆坂小学校 保健体育科指導員 杉浦 大作 葵中学校 保健体育科指導員 波江野寛之	9:00 12:00
7/28	技術・家庭科 (技術分野)	甲山中学校 技術・家庭科指導員 河澄 崇	9:15 11:50
7/28	家庭科	緑丘小学校 家庭科指導員 高橋 崇子	9:15 11:50
7/28	外国語(外国語活動)・ 英語<小学校の部>	南中学校 英語科拠点校指導員 伊奥田美智代	9:10 11:15
7/28	外国語(外国語活動)・ 英語<中学校の部>	愛知教育大学 教授 建内 高昭	13:45 16:10
7/28	道徳	愛知学泉大学 教授 前田 治	13:15 16:10
7/28	特別支援教育	愛知教育大学 特別支援教育講座講師 岩本 佳世 額田中学校 主幹教諭 鈴木 孝広	9:15 11:50
7/28	学習情報	羽根小学校 学習情報指導員 河合 泰宏 藤川小学校 学習情報指導員 太田 尚志	9:00 11:50
7/28	学校図書館	中日新聞社 NIE コーディネーター 岩井 伸江	9:30 11:30
7/28	学校保健	藤田医科大学岡崎医療センター 安全管理部感染対策室 看護副主任 藤城 弓子	13:30 15:50
7/28	生徒指導	矢作中学校 F組支援員 鈴木 武 福岡中学校 F組支援員 入山 定之 甲山中学校 F組支援員 北野めぐみ	9:30 11:35

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間



・カ  
ツ  
ト  
  
細  
川  
小  
  
吉  
田  
真  
由  
子

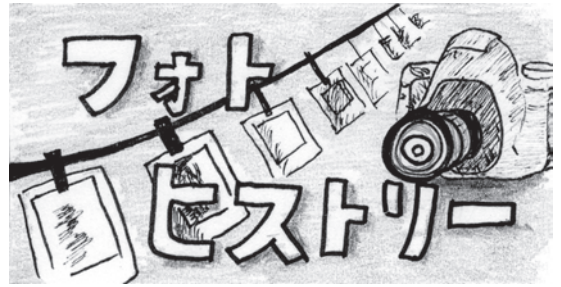
# 健康フェア (平成8年)

写真提供：山中小学校

写真は、平成八年、体育館で行われた健康フェアの様子である。全校児童はじめ保護者、学区の方々が集まった。学習発表やワークショップを開催するなど、子供たちは、保護者、学区の方々と共に、心と体の健康づくりの取り組みを盛大に行った。

同年、山中小は全日本健康推進学校表彰で、中規模校で日本一となる「すこやか大賞」を受賞し、翌九年には全日本健康教育発表大会が開催された。子供たち自身が健康について考え、主体的に活動に取り組むその精神は、今も残る。また、当時の合言葉「えがおいっぱい」は、現在も本校の教育スローガンとなっている。

岡崎市内では、今も子供たちの健やかな心と体の成長を願い、地域、家庭と連携した健康教育を研究の柱に据え、実践を重ねる学校がある。いつの時代も、子供たちの健康な心と体づくりは、学校教育の重要な柱であり、学びの礎となっている。



東北の地に暮らす志賀氏は、東日本大震災を目の当たりにした。そこで拾った一枚の写真。志賀氏は、「写真は伝えるのではなく、問題を共有するものだ」と言う。教材研究もまた同じである。教材から何を読み取り、何を学んでいくのか。子供と共に深い学びに向かっていきたい。

## と ホ 文 目 ツ

本物の教師になるべく、若い先生方の奮闘は続く。コロナ禍というかつてない状況の中ではあるが日々、貴重な経験を積み重ねている。

暗中模索の中から、たくさんの光が差し込んでくる。先輩たちが照らす光、自分で探し出した光、そして子供たちがもつ輝き、それらの光が照らします。道を一歩一歩確実に歩んでいく。

梅雨明けが発表されると、いよいよ本格的な夏の到来となる。今年の夏は、五輪を機に世界の注目が日本に集まる。

未曾有の事態に奮戦する我々へのエールの如く、今年も蝉が鳴き出すに違いない。おなじみの騒々しさと共に、変わらぬ日本の夏の音を届けてくれている。



▲夏の日差しを浴びて(矢作西小)



伊賀泰代  
採用基準  
読者の考えを  
大切にする

\*採用基準 伊賀 泰代  
ダイヤモンド社 ￥1,500

心に残った一文  
リーダーシップという概念ほど、欧米と日本での理解のされ方が異なる概念も珍しいでしょう。

世の中の大半の問題は、解決するために他者や組織を動かすことが必要で、そのためにはリーダーシップが不可欠である。

外資系企業で、長い間採用と育成を担当してきた筆者は、この力を一番重視してきたという。そして、この力は訓練を積み誰でも学べ、日常的に使えるスキルになると説く。

リーダーシップをもった人は、大樹に頼らなくても自分の力で状況を切り拓いていくことができる。自分自身の人生をコントロールするためにも必要な力である。

- \*博報堂流・対話型授業のつくり方 大木 浩士 東洋館出版社 ￥1,800
  - \*テレ東的一点突破の発想術 濱谷 晃一 ワニブックス PLUS ￥820
  - \*社員の力で最高のチームをつくる <新版>1分間エンパワーメント ケンブランチャード他著 星野佳路監訳 ダイヤモンド社 ￥1,300
- 下山小 手島 英樹